

少文類集

七月三日 壬午

横須賀造船所費舎規則ヲ定ム

海軍省伺

横須賀造船所費舎ノ儀ハ専ラ造船士官ヲ教育スル  
為ノノ設ケニ候處當省管轄以來モ尚工部省所轄中  
ノ方法ニ隨ヒ格別ノ確則無シ候付今般別冊ノ通規  
則相違一際取締リ相成候様仕度此段奉伺候也六月  
八日海軍

伺ノ通 七月三日

造船所費舎規則

第一條

造船所費舎ハ後來造船ニ從事スル工業士官ヲ教育  
スルノ設ケナレハ入舎志願ノ者ハ此規則ヲ熟覽會

九政類典

得ノ上後ニ掲載スル所ノ拙文ニ照準シテ出願スヘシ

第二條

綴令志願ノ者ト虽氏佛學並算術大畧通知ニシテ賅質強壯ノ者ニ非スンハ入舎スルトヲ許サス

第三條

新入舎ハ旧入舎ノ者卒業ノ後或ハ退舎ノ者アルニ非スンハ許可スルヲ得ス尤新入ヲ許スルハ預シノ之ヲ布達スヘシ

第四條

入舎中衣食ハ勿論備業用ノ器械書籍并筆墨紙等其他雜用トシテ一ヶ月金一圓ツヽ官ヨリ給與スヘシ

第五條

夜具并整裝具ハ自費タルヘシ  
但寢臺并蚊帳ハ官ヨリ之ヲ給ス

第六條

學科ハ教師ノ特權ヲ以テ之ヲ定ムルカ故ニ綴令堪ヘ難キノ學為シ難キノ術ト虽氏必ス其教則ニ従ヒ自ラ奮勵シテ之ヲ遂クルヲ以テ目的トスヘシ

第七條

卒業ノ後ハ當寮ニ奉職セシメ相應ノ俸金ヲ與フヘシ

第八條

入舎中病ニ罹ルキハ御雇醫師ヲシテ治療セシメ重症ノ者ニ於テハ引受人ヘ下附スヘシ  
但六ヶ月以上ヲ経ルト虽氏未復セス或ハ虚弱ニ

本政類典

シ 陥リ又ハ後未成業ノ目的ナキ者ハ退舎セシムヘシ

第九條

入舎中覺則ヲ犯シ或ハ教師ノ指揮ニ戾リ其他粗暴ノ舉動ニ及フ者ハ退舎セシムルハ勿論其入舎中ノ諸費ヲ返納セシムヘシ若シ本人返納スルコト能ハサルハ其引受人ヨリ辨納セシムヘシ

第十條

修業中或ハ卒業ノ後一己ノ利ヲ計リ密カニ手段ヲ構ヘ他途ニ出身セントスル者ハ第九條ノ如ク入舎以來ノ諸費ヲ返納セシムヘシ

第十一條

但頭ノ命ヲ以テ他ニ出身スル者ハ此限ニアラス

入舎中若シ脱走スルトキハ其日迄ノ諸費ヲ引受人ヨリ辨納セシム

第十二條

第九條第十條ノ事件アル片ハ若シ引受人辨納ヲ拒ム片ハ其本人ヲシテ當寮適宜ノ場所ニ於テカ業セシメ其賃錢ノ半額ヲ以テ漸々償納セシムヘシ

第十三條

本人カ業ヲ拒ミ或ハ引受人第十一條ノ辨納ヲ拒ミ又ハ本人カ業中脱走スルトキハ本省へ申達シテ處分ヲ受クヘシ

第十四條

總テ返納金ハ費舎ノ入費ニ充ツヘシ但カ業中死去スル片ハ未納金ヲ官ノ損失ト為ス

九  
政  
類  
冊

第十五條

規則書中時宜ニ依リテ更正スル其時々引受人へ  
通達セサルヘシ  
右ノ通確定候也

年月

主 船 寮

入舎願書案左ノ如シ 料紙美濃紙ニツ折

何年月日何國  
郡地ニ於テ生

何府縣屬族或ハ平民  
何誰子弟或ハ附籍

父兄住所  
當人住所

何 誰  
當幾年幾ヶ月

右之者造船學志願ニ付横須賀造船所費舎ニ於テ寄  
宿修業御許容被成下候様仕度此段奉願候以上

何府縣屬族或ハ平民  
身元

年月日

何 誰 印

主船寮御中

入舎許可ノ身元引受人證狀按左ノ如シ 料紙同前

何府縣屬族或ハ平民  
何誰子弟或ハ附籍

何 誰  
當幾年幾ヶ月

右之者横須賀造船所費舎ニ於テ寄留<sup>宿</sup>修業御許容被  
成下候ニ付テハ御下付相成候御規則堅ク遵奉致シ  
卒業ノ上ハ必ス奉務可為致候屯不都合ノ所為等於有  
之ハ私引受御規則ノ通り御處分相受可申仍テ證書  
如斯ニ候也

年月日

何府縣屬族或ハ平民  
何 誰 印

主船寮御中

前書之通相違無之候也

大政類典

